

教育と文化

No.138

令和7年7月



Contents

P2 巻頭言「子どもの居場所づくりと絆づくりへの注力」

P4 三河の文化を訪ねて「地域社会の絆を深める 豊橋鬼祭」
八町小（豊橋）

P6 **特集** 編集委員会「ピンチをチャンスに変えた保健体育ノート」

P8 教育随想 「子どもの学びのための豊田市博物館」
チーフエディケーター 伊藤 俊満

P9 教室の窓辺「関わり愛と地域愛から生まれた挑戦」
黄柳川小（新城）（前任校 作手小）

P10 令和6年度最優秀論文

P12 刊行物の活用紹介「個別最適な学びを支える英語演習」

P13 令和7年度学校教育ボランティア助成グループ一覧

P14 令和7年度研究発表校一覧

P16 文振だより

「第1回学校事務担当者会のお礼」

「令和7年度 みかわ彩発見 絵画コンクール」案内ほか



巻頭言

子どもの居場所づくりと 絆づくりへの注力

公益財団法人愛知教育文化振興会 理事長 加藤 嘉一

このたび、彦坂登一朗先生の後任として、公益財団法人愛知教育文化振興会の理事長に就任しました。長い歴史と輝かしい伝統をもつ本法人理事長の重責を感じ、身の引き締まる思いです。もとより微力ではありますが、役員の皆様、事務局の皆様のご指導とご鞭撻を賜り、誠心誠意職務に励みますので、どうぞよろしくお願いいたします。

安を抱える生徒の状況を少しでも改善したいと考え、一人一人の居場所づくりや仲間との絆づくり、そして学校が楽しい、学びが楽しいと感じる教育活動に注力してきました。ここで、本校の取り組みを紹介いたします。

一人一人の居場所をつくる

まずは生徒一人一人が「自分には居場所がある」と感じる環境が必要です。岡崎市では、QUのWEB版を導入しており、学級に満足しているか、自分の居場所はあるかなど、心の状況を把握する調査をしています。担任はその結果を参考にしながら、声かけを増やしたり、教室の座席、学習や生活のグループ編成の参考にしたりするなど、居心地のよさをつくりようと努力しています。



居場所をつくるために子どもを捉える
【健康状況(心の天気)入力の様子】

一方、コロナ禍以降の5年間で環境はめまぐるしく変わりました。その変化との因果関係は定かではありませんが、不登校児童生徒数、いじめ等問題行動の増加はご承知の通りです。私の勤める甲山中学校でも、生徒の様子で気になる場面がいくつもあります。例えば、朝の挨拶運動や廊下でこちらが挨拶をすると、にこやかに挨拶を返してくる生徒が多くなる一方で、どう反応してよいかわからない、下を向いて通り過ぎていく生徒がいます。困惑し、下を向いて通り過ぎていく生徒がいます。また、校内フリースクールに登校する生徒は、温かい大人との関係により、安心してその空間で過ごしていますが、同世代とは距離を置きたいと話すこともあります。SNSの言葉に敏感で、友達関係に悩む事例にも毎年出会います。そんな不

また、本校では、生徒が毎朝自分の心身の状況を天気のマーク(☀️☁️☔️)でタブレットに入力するシステムをつくり、担任が毎日健康チェックをしています。☔️マークを付けた生徒が気になり、担任が声をかけると、これまで気づかなかった生徒の困り感を把握することができました。さらに、担任はもちろんのこと、教科担任などが表情や行動を見て気になる生徒がいた場合に、記号を入力する「スクリーニングシート」を作成し、活用しています。そのシート情報を、SC・SSWを含め職員で共有し、必要なときにはケース会議、外部機関の関わるチーム会議を開き、生徒の支援を考えています。

加えて、ベテランの教師に私がインタビューする形式で生徒の居場所となる学級づくりのためのビデオをつくりました。ある教師は、常に日記を書かせ、そこから生徒のよさや不安をつかもうとしているなど、子どもを捉え生かす工夫を紹介してくれました。刺激を受けた教師が何人もいたようです。どこまで効果があったかははかれませんが、職員室で生徒や学級のことを語る会話が増えていることは確かです。

仲間との絆をつくる

自分の居場所とともに、仲間との絆を実感することで安心感は増大します。本校の教師たちは、昨年、生徒たちが仲間との絆を深めるには、仲間どうしで認め合う場面をつくるのが重要であると考え、「全員リーダー活動」という取り組みを提案してくれました。これは、行事などで、学級等に貢献する活動を生徒が自分で考え、実践する

取り組みです。例えば体育祭では、「水分補給呼びかけリーダーになる」と考えた生徒は、暑い中での練習で休憩になると、率先して水分補給を仲間へ促していました。すると、「〇〇さんのおかげで熱中症が防げたよ」「いつもみんなのことを心配してくれてありがとう」など、仲間へ感謝される言葉をもらっていました。生徒は喜びを得たり、あまり話すことのなかった友達との関係が始まったりと、絆を実感していました。この活動を学級の中にも取り入れようとする動きも見られ、活用の裾野が広がっていると感じます。

特別活動の充実で居場所と絆をつくる

今年度、本校は行事を大きく変えました。部活動改革が進む中、生徒が興味や個性を生かせる活動を確保したり、学校で楽しみを見いだす活動を充実させたりすることを柱とした対策を立てたかったからです。また、9月末の体育祭は、暑さが厳しく開催時期の問題を抱えていました。そこで体育祭・文化祭の二大行事に、「生徒会企画」を加えて三大行事に変え、生徒が活躍できる場を増やしました。また、エアコンのきく市民会館を活用するなど気候変動への対応の工夫をし、内容を編成し直しました。

今、生徒は三大行事の一つ目「甲山祭 生徒会企画の日」(5月31日実施)に向かっていきます。この祭典は、生徒が、小学生や地域の人を楽しませる学級模擬店を開くお祭りです。2・3年生は昨年度、文化祭で初めてこの企画を経験し、小学生に喜ばれたことを覚えているため、昨年度を超える模擬店を作ろうと張り切っています。1年生



特別活動(行事)の充実を図る
【生徒会が企画した文化祭・学級模擬店(令和6年度)】

豊橋の春を彩る熱狂

地域社会の絆を深める「豊橋鬼祭」

豊橋市立八町小学校長 山本 武志

豊橋市立八町小学校は、豊橋市のほぼ中央にあり、吉田城址公園や東三河県庁に隣接した、旧吉田藩の武家屋敷跡に位置しています。地域の絆が強いだけでなく、地域の教育力が非常に高く、三年前に市内初のコミュニティ・スクールとなり、本校児童はさまざまな地域の方々に支えられています。その地域の結びつきの元になっているのが、天下の奇祭と呼ばれる豊橋市の誇り「豊橋鬼祭」です。

要無形民俗文化財にも指定されている豊橋鬼祭は、八町小学校区だけでなく豊橋市民にとって誇りであり、かけがえない宝物です。毎年2月10日と11日の2日間にわたり、豊橋市八町通にある安久美神戸神明社を中心に開催されます。

時の流れに刻まれた

鬼祭の記憶

鬼祭の起源は、平安時代から鎌倉時代にかけての時代に遡ると考えられています。当時流行した田楽という芸能が、神道の儀式に取り入れられ、現在の鬼祭の基礎となったと言われています。特に、豊作や地域の安寧を祈る農耕儀礼との深い繋がりが指摘されており、「田遊び」と呼ばれる、豊穰を祈る素朴な芸能がそのルーツにある可能性も示唆されています。田楽の所作や

持ち物には、収穫への願いが込められており、例えば、祭りの際に使われる冠が稲わらでできていたり、五穀の種が入った袋が飾られていたりするのも、そうした背景を感じさせます。この祭りが毎年執り行われるのは、天慶3年(940年)に創建されたとされる安久美神戸神明社です。この地が伊勢神宮の神領となった際に、寄進された土地の安泰と繁栄を祈願したのが始まりとされています。この由緒ある神社が、千年以上もの間、地域の信仰の中心であり続け、鬼祭という形でその祈りが受け継がれてきたのです。

時代が下ると、鬼祭は歴史上の人物とも深く関わるようになります。現存する赤鬼と天狗の面は、室町時代に、今川義元が寄進したという伝説が残っています。また、幼少期の徳川家康も



「からかい」で鬼を追い払う天狗

鬼たちが織りなす熱狂絵巻

鬼祭の最大の見どころといえば、本祭である11日に行われる赤鬼と天狗の「からかい」でしょう。荒ぶる神である赤鬼と、武神である天狗が、それぞれの秘術を尽くして戦う様子は、勇壮でありながらもユーモラスです。激しい戦いの末に天狗に敗れた赤鬼は、「アツッカー」という叫びとともに境内から逃げ出し、その際にタンキリ飴と白い粉(小麦粉)を撒き散らします。この白い粉を浴び、飴を食べると、厄除けになり、夏病みをしないと古くから言い伝えられています。祭りの当日、見物客がこの粉を浴びて全身真っ白になる様子は、まさに「天下の奇祭」と



天下の奇祭の由来「白い粉まき」

呼ばれるゆえんです。鬼祭には、赤鬼だけでなく、さまざまな役割をもつ鬼が登場します。宵祭に登場する青鬼は、日本神話の手力男命をモデルとしており、「岩戸開き」の神事を奉納します。これは、天照大神が天岩戸に隠れてしまったという神話に基づいたもので、優美な古代衣装をまとった神々と青鬼が、琴や笛の音色に合わせて舞を披露します。また、青鬼は厄除けのタンキリ飴を撒きながら、氏子町内を練り歩く「門寄り」という行事も行います。青鬼に頭を撫でてもらうと、健康にご利益があるとも言われています。さらに、子どもたちが扮する小鬼も祭りに参加し、可愛らしい姿で境内を巡行したり、飴や粉をまいたりするのです。



青鬼の「門寄り」(八町小学校玄関)

児童に受け継がれる

鬼の面づくり

赤鬼の面は、その迫力ある表情から、縁起物として人気があり、お土産として購入する人も多くいます。また、豊橋には江戸時代末期から続く「豊橋張子」という伝統工芸があり、ここでは天狗や鬼の面が作られています。八町小学校では、5年生の図工で「豊橋張子保存会」の方を講師にお招きして、鬼や天狗の面づくりを行い、その作品は翌年度の「豊橋まつり」の際に開催される「子ども造形パラダイス」に出展しています。



5年生が図画工作で「鬼の面づくり」

これからも共に

鬼祭がつなぐ私たちの未来

この祭りを支えているのは、安久美神戸神明社の氏子である14の町会です。これらの町会が、神楽、田楽、歩射、御神幸など、さまざまな神事や行事を協力して行っています。また、豊橋鬼祭は、単なる祭りではなく、地域社会の絆を深める上でも非常に重要な役割を果たしています。千年の長きにわたる、世代を超えて人々の心を結びつけ、地域の一体感を育んできました。本校でも、前日に行われる「宵祭」には、午前中、全校の子どもたちが安久美神戸神明社に出かけ、青鬼の儀式を見学しています。また、午後は多くの子どもたちが地域の活動に参加します。青鬼が門寄りで学校をはじめ地域を回りますが、その後ろには50名以上の子どもたちが袴、法被などを着て飴まきをしています。祭りを介した熱狂的な盛り上がり、子どもたちや地域の人々の深い繋がりが、この祭りを支えています。それは、豊橋のアイデンティティそのものであり、私たちの誇りです。来年の2月には、ぜひ安久美神戸神明社へ足を運んでいただき、この熱狂と感動を肌で感じてみてください。その際は、タンキリ飴と白い粉(小麦粉)にまみれてもよい服装をお願いします。

主たる参考文献 「八町小学校創立150周年記念誌」



天狗と戦う赤鬼

ピンチをチャンスに変えた保健体育ノート 「保健体育ノート編集委員会」奮闘記

これは大変なことになった！

まさに、偽らざる心境でした。時は令和6年9月1日。愛知県教育委員会から令和7年度から使用する中学校の教科書の採択結果が発表されたのです。三河地区の中学校で使用していた保健体育の教科書は、それまで全域でA社のものでした。ところが、令和7年度からは、西三河と東三河地区はB社、豊田・みよし地区はC社の教科書を使用することになりました。また、2年生・3年生は、従来採択されていたA社の教科書を継続して使用するため、学年によって異なる教科書を扱うことになったのです。

本法人が発刊する刊行物は、「教科書準拠」が大前提です。したがって、採択された教科書が違うのに、三河全域で同一の保健体育ノートを使用していたわけにはいきません。

このことは、事務局のみならず、編集委員全員の頭を悩ませることになりました。なにしろ、複数の出版社の教科書が同時に採択されるということは、未だかつて経験したことがなかったからです。従来の編集作業は、現行の保健体育ノートを編集委員全員で分担し、改善点を洗い出したらうえで修正を加えて完成させるというものでした。しかし、今回は「前年踏襲」や「前例にならって」ということは、全く通用しません。なにかから手

以下は、半年にわたる編集作業を終えた編集委員の声です。

- ・これまで目にしたことのない保健体育ノートを編集することに、最初は戸惑いもありましたが、編集作業を進めていくうちに、新鮮な目で内容を吟味することができました。
- ・自分が使うことのない保健体育ノートを担当することになり、正直「えっ？」と思いましたが、授業の展開や教材の解釈を二通り知ることができると思い直しました。自分にとってはプラスであり、2年分の勉強をさせてもらったような気分になりました。
- ・これまでA社の保健体育ノートに慣れ親しんできましたが、同じ教材でも教科書が違うと取り扱い方がずいぶん違うことに気づきました。物事を多角的に見ることの大切さを教えてもらったような気がします。

不安の中スタートした編集委員会でしたが、難局をプラスに捉えてくれた編集委員の努力により、三社に対応した保健体育ノートを発刊することができました。次年度以降も、編集委員の指導の経験等を生かして刊行物の充実に努めていきます。

つけてよいのか、皆目見当が付きませんでした。走りながら考える

まずは、編集委員長、副委員長、庶務担当の教員2名の計4名と本法人で状況を共通理解し、本年度の編集方針を話し合いました。先の見えない状況でしたが、見切り発車ではなく、「走りながら考える」ことで意思統一ができました。

B社については、他の刊行物での取り引きがありましたので、さっそく担当者と連絡を取り、編集委員会の役割や今後の予定を伝えるとともに、情報共有を図りました。その結果、編集方針や出版社との役割分担を理解していただくことができました。

C社については、今まで関わりがなかったので、相手を知ることから始めました。会社と連絡し、役員の方との面会を求めました。その場で、長きにわたり三河地区の小中学校に果たしてきた法人の役割や歴史的経緯、刊行物の種類や内容を丁寧に説明しました。理解していただくのに、多くの時間は要しませんでした。名古屋に支社がないにも関わらず、編集担当者が第1回編集委員会に東京から来館し、編集に協力していただけることになりました。

ピンチをチャンスに

暗中模索の中、第1回編集委員会を迎えること

新保健体育ノートの工夫とは

さて、新しい保健体育ノートには主に五つの工夫があります。

- 表紙には三河の子どもたちが躍動する姿を撮影した写真を使用すること。
- 愛知県版の資料については、できる限り最新のものを使用すること。
- 見開き2ページで1時間の授業が完結するよう紙面を工夫すること。
- 探究的な学びにつながるよう、生徒自らが書き込むことのできるスペースを確保すること。
- ある程度のまとまりごとに設問を設定して、それまでの学びを振り返ることができるようにすること。

保健体育ノートは、「ことばのきまり」と並んで、長い間100%の採用率を誇っていました。ところが、令和7年度版は、残念ながら100%を割り込んでしまいました。本法人では「三河の子どもたちのために」を編集方針の柱として刊行物を編集・発刊しています。三河の子どもたちが確かな学力をつけ健やかに成長して欲しいと願い、令和8年度版保健体育ノートを全ての三河の子どもたちに使ってもらえるよう編集の工夫を続けていきたいと思っています。現場の先生方の更なるご理解とご協力をお願いいたします。



三河の子どもたちのために、熱を帯びるグループ協議

になりました。すでに事態を知っている編集委員もいれば、このとき初めてこの重大さを知る編集委員もいました。編集委員の構成上、自身が使用しない出版社の保健体育ノートを担当せざるを得ない編集委員もいて、戸惑いを隠せない様子でした。

編集作業が始まると、当初の戸惑いはどこかへ吹っ飛んだかのように、熱心に議論する姿が見られるようになりました。そこからは、「三河の子どもたちのために」という編集委員に共通した矜持が伝わってきます。

編集委員の口角泡を飛ばしながら熱心に議論する姿は、まさしく「ピンチをチャンスに」を実行している姿そのものでした。



A、B、C 三社の令和7年度版保健体育ノート

準教科書「たのしい体育」もよろしく

小学校の体育は、教科書のない唯一の教科です。本法人が発刊している「たのしい体育」は、準教科書といってもよい内容です。例えば、指導内容が、イラストや写真を交えて段階的に明示されています。更には、豊富なQRコードで、模範演技の動画や静止面にアクセスできるなど、体育を専門としない先生にも、わかりやすく、使いやすいく内容となっています。採用していただいている学校はもとより、採用されていない学校も、採用に向けて積極的なご検討をお願いします。

なお、サンプル版をHP上に掲載しています。ぜひご覧ください。

子どもの学びのための

豊田市博物館

チーフエデュケーター 伊藤 俊満



Profile いろいろとすみつ

昭和34年生まれ。昭和58年に豊田市立小清水小学校を皮切りに教員生活を始める。平成20年から豊田市教育委員会文化財課指導主事として、博物館の立ち上げに関わり始める。平成25年から豊田市立石野中学校長。令和元年から現職。

探究的な学びができる博物館学習

豊田市の新しい博物館は、学校での学びにつながる楽しい探究的な学びができる場所となることを目標に、令和6年4月に開館しました。

当館では、市内のすべての小学校6年生と中学校2年生を対象に、公費による「博物館学習アクティブ・ラーニングツアー」を実施しています。豊田市の小中学校の先生方とともに、主体的・対話的で深い学びにつながるよう、本物と出合い、本質を問いつける約50の学習プログラムモデルを用意しています。さらに豊田市全体を博物館ととらえ、当館をベースに他の施設も訪問して学びを深めるとともに、アイデンティティの構築も目指すことができるようにしました。

小中学校で学ぶ地層の学習を例に紹介します。午前は、博物館で地層の剥ぎ取り標本や風化花崗岩の観察を通して地質や鉱物について学び、必要に応じて化石の発掘体験も行います。午後は、市内にある地層見学地に移動して、実際の地層がどのように形成されたのかについて探究します。採集した土や石は、日時や場所、地層名、鉱物名などを袋に記録し、持ち帰ることができます。また、社会科で古代人の生活について学ぶ際には、博物館で縄文土器、弥生土器、須恵器、石器

の実物や、衣服に触れることができます。竪穴住居建設キットを利用し、古代の住居のしくみを学ぶこともできます。その後、遺跡公園に移動して復元家屋を調査し、学びを深めるのです。

他にも、国語、生活、総合、道徳、図工・美術などの教科等に関わる学びに対応することができます。特に隣接する豊田市美術館とは連携を深めており、多くの学校が利用しています。初年度の学校利用は、小中・特別支援学校のべ335校、24、451人でした。

博物館学習創設までの経緯

平成20年のことです。「豊田市の子どもたちが本物と出合い、本質を問いつける博物館を」との要請により、私は豊田市教育委員会文化財課へ指導主事として出向しました。当時は、豊田市に博物館はなく、見学施設としては手狭な郷土資料館があるだけでした。私はそこで任に当たることになり、先進的な取り組みをしている博物館を訪ねたり、教育現場の先生方とお話を伺ったりして、博物館と学校の連携について考え始めたのです。同じ年の世界を震撼させたリーマンショックの影響で、博物館建設計画も一旦は途絶えましたが、後任の指導主事や主任主査の方々が博学連携の事

業を継続発展してくださり、博物館建設や博物館学習につながることができました。教育委員会への出向から11年後、定年退職と同時に再びこの博物館事業の任に就き、6年かけて博物館学習を始めることができたことを感慨深く思います。この間、教育委員会との調整、博学連携委員会の発足など、多方面の方々にご協力をいただきました。特に、博学連携委員に委嘱させていただいた豊田市内小中学校の各教科部会長の校長先生方や主任の先生方には、博物館の建築や学習プログラムモデルの作成面について多くのご示唆、ご助言をいただき、心から感謝しています。そして、博物館開館後も博学連携委員会は継続開催されており、子どもたちの学びのためにプログラム等の改善を重ねています。開館2年目を迎える今年度も、利用される学校の先生方との丁寧な打ち合わせを大切に、多方面への展開も視野に積極的に活動を推進していきます。



実物土器に触れる体験



地層見学

教室の窓辺

関わり愛と地域愛から

生まれた挑戦

新城市立黄柳川小学校
(前任校 新城市立作手小学校)

教諭 田尻 恵子

「今年はどうしよう」と、頭を悩ませていた総合的な学習の時間が、いつしか「今年は何に挑戦しようか」と、子どもと共に考えることに、私の胸は躍らされるようになっていました。

作手小学校は、教育目標である「挑み続ける子」を目指し、研究主題を「作手との関わりの中で自分の思いや考えを発信できる子の育成」としています。そこで、日々の授業で、子どもがわくわくし、自ら関わりたい、思いを発信したい、という態度を育めるような教材を求め、研究を進めてきました。

「作手の活性化のために、作手の魅力を多くの人に発信したい」「作手でがんばっている人を応援したい」と、生き生きとした表情で思いを発信する子どもたち。地域の方々に見守られ育ってきた作手愛にあふれる子どもだからこそ、地域へ貢献したいという熱い思いがこめられた話し合いとなります。そんな子どもたちは、「スクープ作手の仕事人」来て見て感じる作手のみりよく愛するわがまち「作手応援隊」と大きなテーマを掲げ、一年間さまざまなことに挑み続けました。

まず、作手応援隊となって、地域で働く仕事人を紹介しようと考えました。そして、もっと広く深く作手のよさを発信したい、そのために必要となる活動資金を集めようとクラウドファンディングとバザーへの挑戦を決めました。多くの方々のご協力のおかげで、活動資金を集めることに成功した子どもたちの達成感は、次の活動への大きな原動力となります。

いよいよ、集めた資金を活用しての発信活動です。「作手以外の人に、作手っていいなと感じてもらいたいことが必要」と、他地区のイベントに出店することによる作手の宣伝活動を考えました。地元建築会社から提供していただいた鉋屑で、ポンポンや花を作るワークショップを開いたり、作手の自慢の食材を味わってもらおう試食コーナーの設置をしたりしました。初対面の方々にも作手の魅力を堂々と発信している子どもの一生涯懸命な姿から、作手のよさを知ってもらいたい、広げたいという強い思いが伝わってきました。

このイベントで、子どもたちの熱意に共感してくださる方と出会いました。その方は、ベルギーから一時帰国中の方で、子どもが紹介した作手の特産品の一つ「奥三河ほうれんそう」をベルギーのシェフに紹介してくださったのです。自分たちの発信が海を渡ったと知ったとき、子どもたちは信じられないという驚きと感動で喜び合いました。

今後も、地域教材を生かし、地域と関わり合う授業づくりを大切に、挑戦していく子どもたちにも「挑み続ける教師」でありたいと思っています。



「新城軽トラ市」で発信する子どもたち

地域で温かく見守られ育っている子どもたちは作手愛にあふれています。もっと多くの人に作手のよさを知ってもらいたい、目を輝かせながら語る子ども姿があります。

田尻教諭は、一人一人の子どもの思いを大事にするため、自分が作手を知り、広く深く調べ、地域の方との対話を楽しむという熱心な姿勢があります。地域と共に、子どもの興味に寄り添う單元を構想し、年間を通しダイナミックな実践に取り組んできました。その結果、どんな課題もあきらめず追究し、友達と協力しながら、作手のよさを発信することに挑み続ける、生き生きとした子ども姿につながりました。

新たな学校でも、子どもがわくわくしながらのめりになって取り組む授業を実践する田尻教諭の活躍を期待しています。

新城市立新城中学校

(前任校 新城市立作手小学校)

校長 服部 智子



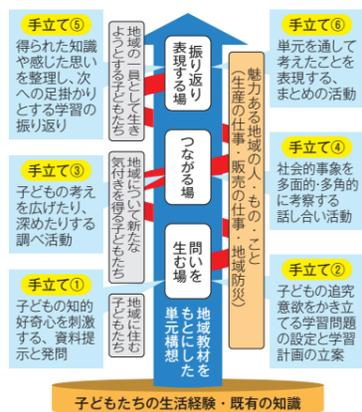
田原市立田原中部小学校
教諭 津田 将吾

地域の人、もの、ことと関わることで、 主体的・対話的で深い学びを引き出す 社会科学習

一 はじめに

本研究では、「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた社会科授業の改善について考察した。子どもたちが「本物」（地域の人、もの、こと）と出会う体験が学びへの主体性を引き出すのではないかと。また、教師の意図的なきかけ、すなわち社会科が従来大切にしてきた問題解決型の学習が子どもたちを深い学びへと誘うであろうと考えた。

そのことを踏まえ、地域素材を教材化し、単元を構想する際に、子どもたちの知的好奇心を刺激する「問いを生む場」、自分たちで見出した学習問題を追究する際に、適切な「地域の人、もの、こと」や仲間の思いや考えと関わる「つながる場」、得てきた具体的



知識をつなげたり、自分の思いや考えを再構築したりする「振り返り表現する場」の三つの学習過程を設定した。この過程を積み上げることで、地域に住む子どもたちが、地域についての新たな気づきを得て、その愛着や誇りを胸に、地域の一人として生きようとするのではないかと。それこそが、「主体的・対話的で深い学び」を通して育みたい子どもたちの姿であると考えた。

二 一年次の研究

「小学3年 生産の仕事」

① 問いを生む場

田原市の農業生産は野菜が一番多いと考えていた子どもたちに、花卉栽培の方が多くという事実と出合わせたことで、これまでの社会認識とのずれが生じ、「なぜ花卉が多いのか」という疑問が湧き上がった。また、その疑問をもとに、「田原市の花の生産が、日本一になれた秘密を探ろう」という学習課題を設定したことで、子どもたちは、その解決に向けて、目的意識をもって、農家見学に出かけることができた。

② つながる場

アジサイ農家の見学を通して、子どもたちは、新たな気づきや知識を獲得したり、自分の予想を確かめたりすることができた。また後日、見学で抱いた疑問を、インタビューを通して農家に質問することで、知識と知識をつなぎ合わせ、促成栽培に関する理解を深めることができた。さらに、友達とつながることで、見つけた仕事の工夫について、考え方の違いを認識し、そこから新たな気づきや考え方を得るなど、農家の工夫や努力への理解をいっそう深めた。

③ 振り返り表現する場

振り返りの視点を示すことで、「何が分かったのか」がより明確になった。



集落センターで現地調査

ついでに見直したり、それぞれの取り組みに関する自分の考えを広げたり、深めたりすることができた。その調べ学習から生まれた二つの視点をもとに、ベン図を用いて自分たちにできることを考えたり追発問を行ったりしたこと、これまでの学習内容をもとに、自分たちにできる地震や津波の対策について多面的・多角的に考察することができた。

③ 振り返り表現する場

単元の節目ごとに学習を振り返ったことで、その学習を通して、子どもたちは、「何が分かったのか」、「どう感じたのか」を整理できた。またその思いや疑問を共有することで、次時の活動へとつながった。また、知識マップを活用することで、得られた知識を整理し、自分の考えの拠り所とすることができた。ある子どもは、単元を通して考えたことを次のように表現し、学習発表会で伝えることができた。



地震や津波から、大切な命を守るためにはいろいろな人の協力が必要なんだと分かりました。自分でできることもありますが、助けてくれる人たちがいます。自分ではできないときは他の人に助けを求めてもいいと思います。また

四 三年次の研究

「小学4年 地域防災」

三年次実践では、二年次実践の課題であった「地域の人とつながる時間の不足」を改善するために、地域の市議会議員、自治会長、自治会の防災リーダー、市の防災担当者、海上保安庁職員など、校区の防災に関わる多様な立場の人とつながる場を、子どもたちの思考に寄り添いながら設けた。

① 問いを生む場

本校では、スクールバスで通学している子どもたちがおり、二期からその通学路が変更となった。南海トラフ地震の津波被害から子どもたちを守るために、道路を新設したからである。それに疑問をもった子どもたちのつぶやきを取り上げたり、道路工事の写真を比較したりしたことで、家を取り壊してまで通学路を変えた必要性について子どもたちに強い疑問を抱かせた。

その疑問をもとに、

「南海トラフ地震では、どのようなことが起こるのかを解き明かそ



完成した道路



工事中の道路

う」という子どもたちの問題意識に沿った学習問題が設定できた。さらに南海トラフ地震の被害の怖さを知った子どもたちに、防災マップを提示したことで、地震や津波の対策が自分の問題となり、その必要性を強く感じ、追究意欲を高めることができた。

② つながる場

地域の市議会議員とつながることで、子どもたちは通学路が変更された理由を知り、そこに込められた地域の人々の願いに気づいた。そこから地域の記録や市の担当者へつながりを広げたことで、地震や津波の怖さについて知り、津波の速さを体験する活動を行うことで、具体的なイメージをもち、実感を伴った理解ができた。さらに家庭、学校、地域、市、国それぞれを取り組みについて、現地調査をしたり、それらに関わる人に話を聞いたこと、子どもたちは自分の家の対策に



津波の速さを体験



市の担当者につながる



市議会議員につながる

③ 振り返り表現する場

単元の節目ごとに学習を振り返ったことで、その学習を通して、子どもたちは、「何が分かったのか」、「どう感じたのか」を整理できた。またその思いや疑問を共有することで、次時の活動へとつながった。また、知識マップを活用することで、得られた知識を整理し、自分の考えの拠り所とすることができた。ある子どもは、単元を通して考えたことを次のように表現し、学習発表会で伝えることができた。



地震や津波から、大切な命を守るためにはいろいろな人の協力が必要なんだと分かりました。自分でできることもありますが、助けてくれる人たちがいます。自分ではできないときは他の人に助けを求めてもいいと思います。また

また、新たに抱いた疑問を次時の学習へとつなげることができた。この積み重ねにより、単元を通して、子どもたちが問題に向かう意識を継続させたり、知識を習得、活用したりすることができた。さらに、宣伝シールとして単元を通して自分が考えたことを表現することで、地域の生産の仕事に対する愛着と誇りを表現することができた。

三 二年次の研究

「小学3年 販売の仕事」

二年次実践では、学習支援アプリの「ロイロノート」を使用することにした。子どもたちの得た情報、一人一人の考えや思いを「ロイロノート」で共有することで、一年次実践の課題である「知り得た情報や仲間の話にしっかりと向き合い、理解することへの解決を図った。

「ロイロノート」を使い、知り得た情報や子どもたち一人一人の考えや思いを共有することで、子どもたちは店の工夫についてじっくり考えたり、友達の考えを聞いて自分の考えを再構築したりして、「販売の仕事」に関する理解を深めた。

とりわけ思考ツール「ダイヤモンドランキンング」を使い、集客に対する「店の工夫」の重要度を子どもたちが考えた場面では、「店の工夫」を多面的に捉えることに効果があった。

誰かから助けを求められたら、自分でできることを考えて行動しようと思えました。自分で判断すること、周りの人と協力することを、ふだんから心がけて生活したいと思います。

単元を通して、子どもたちは、さまざまな取り組みやそれらに関わる人たちとつながり、地域の一人として、みんなの命を守るために、協力することの大切さを実感した。

五 おわりに

三年間の研究を通して、地域教材のよさを感じることができた。第一に、子どもたちの関心を高め問題意識につなげることができたこと。第二に、子どもたちの経験や体験によって追究活動ができること。第三に、子どもたちの調査方法や学習方法に幅が広がること。第四に、子どもたちが地域への愛着や誇り、つながりをもてることである。

こうしたよさを生かしながら、「問いを生む場」、「つながる場」、「振り返り表現する場」を意識して単元を構想することで、地域に住む子どもたちが、地域についての新たな気づきを得て、その愛着や誇りを胸に、地域の一人として生きようとする姿を創出することができた。

今後このような姿を追い求め、研究を深めていきたい。

「英語演習」の活用法

個別最適な学びを支える英語演習

岡崎市立天作中学校 教諭

寛 真由美

時代の変化に伴い、中学校英語で求められる力が大きく変化する中、英語に対して不安を抱く生徒もおり、生徒の実態は多様化しています。こうした生徒たちに対応するため、授業は一筋縄ではない状況が続いています。生徒一人一人の学習ニーズに応じた指導が求められる今、個別最適な学びを支援する教材の活用がますます重要になってきています。「英語演習」は、そのような現場において大きな効果を発揮する教材の一つとなっています。

① 知識・技能と思考力・判断力・表現力等の向上を図る

「英語演習」は、基礎から応用へと段階的に学力を伸ばせるよう工夫されており、スムーズにステップアップできる構成となっています。また、問題が厳選されているため、単元の確認を一枚で効率よく取り組める点も大きな魅力です。基礎力の定着と応用力の強化を両立でき、生徒の到達度に応じた柔軟な活用が可能です。

授業では、生徒が自分のペースで取り組めるようにしました。基礎をじっくり固めたい生徒は、表面の問題を解き、答え合わせをしながら分かりやすい解説をもとに理解を深めていました。裏面には、教科書本文とは異なるものの、関連性のある読解問題が出題されており、英語を得意とする

生徒がさらに力を伸ばせる内容になっています。実際に、「テスト前の力試しになるからよい」といった生徒の声も聞かれています。

② 実践的な力の向上を図る

愛知県内の高校入試に近い形式の問題構成により、生徒は応用力を養う学習に意欲的に取り組むことができています。特に、マークシートを意識して、記号問題が多く出題されている点は、生徒の「やってみよう」という意欲を高める要因となっています。さらに、三河地方にちなんだテーマが随所に取り入れられているため、「実際に自分も使ってみたい」と思える表現が多くあり、実用性と親しみやすさを兼ね備えていると感じます。日々の授業はもちろん、入試対策まで幅広く活用でき、個に応じた学びができていますと実感しています。

③ リスニング力の向上を図る

リスニング問題の袋にはQRコードが印刷されており、すぐに音源を再生できるようにしています。CDの準備や音源ファイル確認の手間が不要になるなど、現場での使いやすさが保証されている点は、先生方の声からできた教材ならではの細やかな心配りが感じられます。また、生徒が各自で聞き直しができるように、問題用紙にもQRコードが掲載されています。かつてはCDで一斉に再生するしかなかったため、「もう一度聞きたい」生



音源を一斉に流せるQRコード

徒と「もう十分」という生徒への対応が難しかったのですが、今ではその課題が解消されました。授業では、テストや入試を意識して、一回目は全体で聞き、答え合わせや聞き直しを個に委ねるようにしています。生徒は、それぞれ必要に応じてQRコードをタブレット端末で読み取って学習を進めていました。また、リスニングはどう勉強すればよいのか聞かれることが多くありましたが、その悩みも「英語演習」の活用により解消することができました。問題に慣れ、自分のペースで聞き直したり、スクリーンを確認したりできることにより、リスニングへの抵抗感が減少しているようです。



リスニング問題を復習

④ 教師の力量向上を図る

定期テスト等で、思考力・判断力・表現力を問う問題づくりに悩む中で、「英語演習」は、具体的な評価の手がかりとしても参考になります。掲載されている問題を参考にすることで、生徒にどのような力をつければよいのか、その方向性が見えてきます。さらに、今年度からはリスニング問題の裏面に総合問題が加わり、単元テストや学習のまとめとして、活用の幅が広がっています。英語教育を取り巻く状況は日々変化し続けており、それに伴って、「英語演習」も改良が重ねられています。私自身も学びを止めることなく、授業改善に努め、常に進化し続けていく教師でありたいです。

令和7年度学校教育ボランティア助成グループ一覽

読書活動グループ助成対象団体

〈地区〉	〈団体の名称〉	〈代表者〉	〈主な活動場所〉
附属	愛知教育大学附属岡崎小学校読み聞かせクラブ	羽山未沙貴	愛知教育大学附属岡崎小学校
岡崎	美合小学校読み聞かせボランティア「こあらグループ」	栗田 洋子	美合小学校
岡崎	マザーグース会	根岸 昌子	井田小学校
岡崎	読み聞かせボランティア 樹げ夢の会	谷本 祥子	大樹寺小学校
岡崎	学校ボランティア読み聞かせ「笑本の会」	木原 麻緒	矢作北小学校
碧南	鷺小おはなしの森クラブ	佐脇 愛子	鷺塚小学校
刈谷	平成小学校図書ボランティア「ブックマーガレット」	矢田部里奈	平成小学校
刈谷	小垣江小図書ボランティア	植田 友里	小垣江小学校
豊田	竹の子	杉村 梢	稲武小学校
豊田	ドリムクラブ	渡邊智恵子	元城小学校
豊田	読み聞かせボランティア「森の本ばこ」	佐野 有紀	童子山小学校
豊田	ダンボの会	横越 麻有	小清水小学校
豊田	豊松小読み聞かせボランティア「よみつ子ハート便」	大原 辰巳	豊松小学校
豊田	則定小学校読み聞かせグループ「ハグまーま」	柴田 真弓	則定小学校
安城	安城中小学校読み聞かせボランティア「お話スケッチ」	伊奈 美里	安城中小学校
安城	桜林小学校読み聞かせボランティア「お話のへや」	山崎 瑞穂	桜林小学校
安城	おはなし宅急便	大見 綾美	新田小学校
西尾	八ツ面小学校図書ボランティア	都築小百合	八ツ面小学校
西尾	鶴城小学校図書ボランティア	杉浦 裕子	鶴城小学校
西尾	西野町小学校図書ボランティア	稲垣由紀子	西野町小学校
知立	おはなしの会	伊藤 沙織	知立西小学校
高浜	高浜市立港小学校図書ボランティア	貞方みゆき	港小学校
みよし	あつふるみんと	石井 瑠美	中部小学校
幸田	荻谷小読み聞かせボランティア	鳥居 景子	荻谷小学校
豊橋	飯村小学校図書ボランティア	新井 由佳	飯村小学校
豊橋	おはなし会	藤澤 潤子	松葉小学校
豊橋	図書ボランティア	小室 美咲	下地小学校
豊橋	高根小読み聞かせボランティア「おはなしの会」	若見 紀子	高根小学校
豊川	読み聞かせボランティア	小菅 香織	御油小学校
豊川	金屋小学校読み聞かせボランティア	小野 正己	金屋小学校

〈地区〉	〈団体の名称〉	〈代表者〉	〈主な活動場所〉
豊川	豊小学校図書・読み聞かせボランティア	森島 涼子	豊小学校
蒲郡	がまん図書サポーターズ	水野 佳江	蒲郡南部小学校
蒲郡	グループ ひだまり	小田島世子	蒲郡東部小学校
新城	舟着小学校読み聞かせボランティア「五本のけやき」	山本裕紀子	舟着小学校
新城	八名小学校読み聞かせグループ	山本いづみ	八名小学校
田原	童浦小読み聞かせボランティア	和田由美子	童浦小学校
田原	おはなし届け隊	小林 央子	若戸小学校
北設楽	津具語りの会	鈴木真由美	津具小学校
北設楽	おはなしチーム「つたえっこ」	久野 愛子	豊根小学校
附属	愛知教育大学 ダンスサークル	白井 葉菜	愛知教育大学附属特別支援学校
岡崎	北野学区見守り隊	伊奈 憲一	北野小学校
岡崎	上地小おやじの会	杉山 慶祐	上地小学校
岡崎	西端小学校見守り隊	小野 洋雄	西端小学校
碧南	富士松中学校サポーターズ	塚本 清彦	富士松中学校
刈谷	畷部小学校図書ボランティア	井上留美子	畷部小学校
刈谷	九久平小学校読物ボランティア	土田 綾乃	九久平小学校
安城	今池小図書ボランティア	村司 香子	今池小学校
西尾	しおさいっ子見守り隊	杉浦 恒一	一色中学校
知立	南風会	下阪 将三	知立南中学校
高浜	未来につなぐ会	神谷 章一	高浜小学校
みよし	南でもボランティア	岡本 洋子	南中学校
幸田	学校支援ボランティア	高田 智香	中央小学校
豊橋	豊橋市立細谷小学校図書ボランティア	伊藤佐枝子	細谷小学校
豊橋	八町サポーターズ	福井 基明	八町小学校
豊川	東中おやじの会	新田 哲也	東部中学校
蒲郡	キ・カ・ク サークル	岩金 美幸	蒲郡中学校
新城	田んぼの師匠	山内 康平	東郷東小学校
田原	清田っ子応援ボランティア	鳥居喜美子	清田小学校
北設楽	東栄まゆ花会	桂木 冷子	東栄小学校

読書活動以外のグループ助成対象団体

〈小学校〉

発表年月日	研究領域	研究主題	研究期間	指定等	地区	学校名
7.10.30(木)	教科指導	人生を主体的に切り拓く子 ～めざせ！子どもが主語の学び～	5～7	市教委	豊川	小坂井西小学校
7.10.30(木)	全教科	『子どもが主体的に学ぶ学校』 ～対話を通して自ら学びを深める「みがく」の実践～	5～7	市教委	新城	八名小学校
7.10.30(木)	全教科	「作手との関わりの中で自分の思いや考えを進んで 発信することのできる子の育成」 ～関わりの楽しみ、学びを深める～	5～7	市教委	新城	作手小学校
7.10.30(木)	道徳 特別活動 体育科	自他を大切にする子 ～健やかな心と体を育む活動を通して～	6～7	市教委	田原	田原東部小学校
7.10.30(木)	全教科	「なかまと磨き 心輝く ふくえっ子」 ～道徳教育を核とした心を豊かに育てる教育課程の実践を通して～	5～7	市教委	田原	福江小学校
7.10.31(金)	生活科 総合的な学習の時間	ふるさと津具で学び、たくましく生きる子どもの育成 －生活科、総合的な学習の時間で育む－	5～7	事務協 県へき研	北設楽	津具小学校
7.11.20(木)	学習指導	主体的に探究を続ける児童の育成 ～自分達の事として地域課題に向き合う プロジェクト学習を通して～	6～7	市教委	豊田	東広瀬小学校

〈中学校〉

発表年月日	研究領域	研究主題	研究期間	指定等	地区	学校名
7.9.19(金)	道徳教育	他との関わりで学びを深める生徒の育成 ～楽しい道徳授業と人間関係づくりを通して～	5～7	市教委	碧南	東中学校
7.10.8(木)	全教科	『共創する生徒』 ～多様な他者と共によりよい考えを創る授業を目指して～	6～7	市教委	刈谷	刈谷南中学校
7.10.17(金)	全教科	粘り強くチャレンジする生徒の育成 ～「選択」と「共有」を核とした学びのデザインを通して～	6～7	市教委	安城	安城北中学校
7.10.22(木)	生徒指導	子供たちのウェルビーイング実現にむけた教育の推進 ～子供の発達を支える生徒指導～	5～7	市教委 国立教育 政策研究所	岡崎	甲山中学校
7.10.22(木)	全教科	自分の思いを語るしおさいの生徒たち ～あたたかな人間関係を土台に思いを大切に授業づくりを通して～	5～7	市教委	西尾	一色中学校
7.10.22(木)	学習指導	自らを客観視し、最適な学びを自己決定できる生徒の育成 ～世界（ひと・もの・こと）との関わり合いによる 考えの再構築の繰り返しを通して～	5～7	市教委	豊橋	豊城中学校
7.10.23(木)	教科指導	学びをたのしむ竜北生 ～生徒と教師が共に育つ学校づくり～	6～7	市教委	知立	竜北中学校
7.10.30(木)	教科指導	未来力をみがく ～非認知能力に着目して～	5～7	市教委	豊川	音羽中学校
7.10.30(木)	教科指導	自立した学習者 ～生徒がつくる授業「みがく」の実践～	5～7	市教委	豊川	御津中学校
7.10.30(木)	全教科	自分たちが創る授業で、 仲間と共に問題を解決する生徒の育成	5～7	市教委	新城	東郷中学校
7.11.6(木)	生徒指導・情報 教育(ICT活用)	生徒一人一人の居場所づくりを支える学校 ～多面的な生徒理解とスクリーニングによる適切な 支援を通して～	6～7	市教委	豊田	高橋中学校

〈附属学校〉

発表年月日	研究領域	研究主題	研究期間	学校名
7.10.7(火)	全教科	第54回生活教育研究協議会 「躍動」（5年次）	3～7	愛知教育大学附属 岡崎中学校
7.11.7(金)	全教科	第56回特別支援教育研究協議会 「人とともにいきる子」（1年次）	7～11	愛知教育大学附属 特別支援学校
7.11.19(木)	全教科	第76回生活教育研究協議会 「自分と向き合う子ども」（2年次）	6～10	愛知教育大学附属 岡崎小学校

〈小学校〉

発表年月日	研究領域	研究主題	研究期間	指定等	地区	学校名
7.9.24(木)	全教科	未来を創造する子の育成 ～「発信」「整理」「創造」のステップを明確にした授業を通して～	6～7	市教委	刈谷	双葉小学校
7.10.1(木)	学習指導	夢中になって学ぶ蒲南っ子 ～地域の人・もの・ことのかかわりを大切に授業づくりを通して～	5～7	市教委	蒲郡	蒲郡南部小学校
7.10.1(木)	教科指導	自ら学び続ける子 ～4つの学習過程を繰り返す授業づくり～	5～7	市教委	蒲郡	大塚小学校
7.10.8(木)	学習指導	地域・仲間と関わり合い、感性を磨きながら自己決定できる子の育成 ～心に響く学習の創造を通して～	5～7	市教委	豊橋	二川小学校
7.10.9(木)	算数科	より良い自分の実現に主体的に向かう児童の育成 ～課題解決の方法を児童が自ら選び、思考を深める算数の授業づくり～	6～7	市教委	安城	安城西部小学校
7.10.15(木)	全教科	自ら学びに向かい、他者との関わりの中で、 新たな価値を創造できる子の育成 ～学び方の選択と考えの再構築を通して～	5～7	市教委	岡崎	城南小学校
7.10.15(木)	全教科	学ぶ喜びを感じる児童の育成	6～7	市教委	刈谷	富士松北小学校
7.10.22(木)	全教科	仲間とともに生き生きと学ぶ花ノ木っ子 ～誰もが参加できる授業を目指して～	5～7	市教委	西尾	花ノ木小学校
7.10.22(木)	生活科 総合的な学習の時間	自他を大切にし、よりよく生きる寺津っ子の育成 ～生活科総合的な学習の時間における「ふるさと単元」の実践を通して～	5～7	市教委	西尾	寺津小学校
7.10.24(金)	全教科 (教科領域指導)	『児童の思考を促す主体的・対話的で深い学びをもとめて』 ～「たい！」を引き出し学びをつなぐ～	5～7	市教委	みよし	黒笹小学校
7.10.29(木)	全教科	「みんなが学びの主人公」となる全員参加型授業の創造 ～一人一人の発想・感性を生かすD]学習を通して～	5～7	市教委	岡崎	大樹寺小学校
7.10.29(木)	全教科	自ら課題をもち、かかわり合いながら、学び続ける子の育成 ～三河安城小マイプラン学習の実践を通して～	6～7	市教委	安城	三河安城小学校
7.10.29(木)	学習指導	粘り強く学び抜く子どもの育成 ～たくましくなやかな心づくりを土台とした、個の学びと 関わりの時間を大切に授業づくりを通して～	5～7	市教委	豊橋	芦原小学校
7.10.30(木)	全教科	すすんで探究し、互いを高め合える三和っ子 ～ICTを活用した学習の効率化と個別最適化～	6～7	市教委	西尾	三和小学校
7.10.30(木)	教科指導	「たい！」があふれる学校 ～学校規模ポジティブ行動支援(SWPBS)で主体的な学びを支える～	5～7	市教委	豊川	豊川小学校

文振だより

01 第1回 学校事務担当者会のお礼

各地区で予定していました、第1回学校事務担当者会を無事終えることができました。返品事務にもご協力いただき、ありがとうございました。
本会で出たご質問やご要望につきましては、地区担当者より回答させていただきます。なお、今後の運営の参考となるご意見につきましては、本法人内で検討生かしてまいります。貴重なご意見等ありがとうございました。

02 「高校入試問題集」 「親と子の自然観察ガイド」 納品、追加注文について

第2期注文、ありがとうございました。7月初旬の納品を予定しています。受け取られましたら、早めに数の確認をお願いします。
『高校入試問題集』と『親と子の自然観察ガイド(第5集)』につきましては、第2期の当初注文期限は過ぎましたが、随時追加注文を受け付けています。ご希望があればシステムに入力してください。

03 本法人ホームページ内 「三河の先生応援ページ」 の閲覧について

本法人ホームページ内「三河の先生応援ページ」には、デジタル採点支援システム「文振版リアテンド」の情報や、ご採用に向けての刊行物見本(R6年度版)などを掲載しております。ページ閲覧のためのパスワードは、本法人メールマガジンでお知らせしています。ぜひ、ご活用ください。

令和7年度 業務組織

※()内は担当地区

顧問	岩月 慎自
理事長	加藤 嘉一
副理事長	夏目 貴司
常務理事	天野 明典 (豊田) 浅井 英雄 (豊橋)
事務長 (兼 総務部)	柵木 智幸 (岡崎・附属)
事務次長 (兼 業務部)	加藤 博之 (安城)
総務部	近藤 文彦 (新城)
編集部	保科 克之 (西尾) 平井 敦 (幸田・蒲郡)
ICT部	名倉 嘉章 (碧南・高浜) 鈴木 勝久 (みよし・知立)
業務部	山田 昌弘 (田原・北設楽) 本多麻紀子 深津 理絵
経理部	松平 貴圭 (豊川) 都築 克章 (刈谷) 牧 富代
事務補佐	鳥居 直美

令和7年度 **みかわ** さい 発見 **絵画コンクール** あなたのくらし・まつり・ふるさとを描いてみませんか?

春・夏の部 最優秀作品[令和6年度] 1年
秋・冬の部 最優秀作品[令和6年度] 4年

応募期間 **春・夏の部** 令和7年 8月21日(木) ▶ 9月4日(木)
秋・冬の部 令和7年 12月15日(月) ▶ 令和8年 1月13日(火)

詳しくはこちらから

刊行物 使用報告・注文締切

◇使用報告/夏休み日誌
7月3日(木)~7日(月)
算数の友(下)
9月2日(火)~4日(木)

□注文締切/冬休み日誌・かきぞめ手本
9月9日(火)~11日(木)

令和7年度 団体研究助成

6月16日(月)に審査委員会が開催され、次の5団体に交付が決定しました。

- 三河小中学校長会
- 三河教育研究会
- 三河教頭会
- 愛知県へき地教育研究協議会
- 生活・特別支援教育研究協議会

文振の最新情報は、ホームページをご覧ください。各種応募要項、申請書の様式等もアップしています。

